

ひと紀行

優れた臨床医や研究者を輩出する信州大医学部。県内唯一の医学部として六十年余の歴史を重ね、最先端の医療に挑む現代の上医が集う。命を救い、病を癒やす医療の一端を探ると、熱い使命感とチャレンジ精神が脈々と流れている。

(寺口 信二)

最先端医療に挑む熱い思い

松本市
信大医学部



に里帰り。大学院と付属病院の教授を兼任して研究室から臨床までを任される激務だが、「講演会で県内各地に招かれると『お帰りのさい』と声をかけていただける。皆さん、温かい。生まれ故郷じゃなければ、こんな一生懸命はやれませぬ」

＊

池田たちが今年、付属病院に設立した先端心臓血管病センター(A-CVC)。その新しいマークを白衣の袖に縫いつけ、循環器内科

の大学院生、米山文子(29)に秘めた決意は固

く、過去十年間

千人のうち県内出

十九人とまり。初

高校卒業生のため

入試推薦枠五人の

が、きょう十日行

放射線医学教室

角谷眞澄(52)は「

者を地元で育て、

開する人材を育成

が急務」と力説す

や磁気共鳴画像法

などで写されるわ

から、隠れた病態

かす「読影」が専

待が高まる放射線

域の医療機関と協

い水準の医療を実

ットワークの構築

新治療法の確立／入試で県出身者



(上から)新藤隆行さん、池田宇一さん、角谷眞澄さん

＊

池田宇一(51)は、循環器

長野市出身で二年前の春

これまでに、他の遺伝子の働きをコントロールする遺伝子KLF5の機能を発見。血管を新生させる物質アドレノメデュリンの働きを突き止めるなど、新たな治療法の可能性を上げた。「各分野の専門家と協力して新しい取り組みとアイデアで勝負して行きたい」

新藤隆行(38)は昨夏、東大大学院の助手から大学院的有名医。「トカゲのしっぽは切れてもまた生えてくるでしょ。人間の骨髄液の中にも、様々な器官を再生させる細胞があるんです」。五年前、糖尿病の悪化などで足の切断を余儀なくされる患者に、骨髄から血管を再生する単核球細胞を抽出して血管の詰まった部分に注射、血管を再生する世界初の治療を自治医科大学行った。「自分の骨髄液を使うからリスクも少ない。これまでは足を切るしかなかった患者さんから大変喜ばれた」。医学は日進月歩。最先端だったこの治療法は今、全国の三十病院で三三例を超える標準治療となり、信大病院でも十例を数えた。近い将来、心臓の血管を再生させる治療をも見据えている。



表彰



林さん(右)

療の向上に力を尽くした医療関係者に贈られる。林さんは、三岳村唯一の医療機関である同診療所に約二十一年前から勤務し、村内の

要とされる場所で必要とさではないかと思うと喜び、売新聞社主催の飯山南2年ぶり優勝